

「～自ら考え、行動できる児童の育成～」

平成 25 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 土佐清水市立三崎小学校

I 学校における背景、問題意識

本校は海拔 6.4m、三崎湾から 400 メートルの距離に位置します。近い将来必ず起こるであろうと言われている南海トラフ地震では最大津波浸水深が 10m～15m と想定され、甚大な被害が予想されている。このような現状の中、防災教育に取り組むことは急務であると考え、平成 25 年度高知県実践的防災教育推進事業の指定を受け、「児童が主体的に考え・行動し、自分の命は自分で守ることができる力をつける」ために三崎小学校の特色を活かし防災教育に取り組んだ。



防災教育を推進していく上で、育成する児童の姿を「防災学習を通して日頃から地震に対する備えができる」ことと「一人ひとりが自分の命は自分が守るという意識を徹底させ、自ら考え、避難できる判断力と行動力を養う」ということとした。

そして、本年度の研究主題と防災教育目標を下記のとおり設定し、全教職員で取り組むこととした。

防災教育目標

- ～自ら考え、行動できる児童の育成～
- ・主体的に考え、行動できる子
- ・自分の命は自分で守ることができる子

目標達成に向けての具体的な取組として、児童が主体的に考え行動できるように年間指導計画を作成するとともに防災マニュアルを見直し、様々な場面を想定しての効果的な避難訓練を実施した。また、児童、保護者の実態把握のために防災アンケートを実施し、その結果から、授業力向上を目指した授業研究や教職員の共通理解や防災に対する知識習得のための講師による研修等、目標達成に向けて様々なことに取り組んだ。

III 取組の概要

「児童が主体的に考え・行動し、自分の命は自分で守ることができる力をつける」

～自ら考え行動する防災教育の推進～

- ①児童の意識・実態調査を行い、課題を明らかにすることで、防災意識の向上を図る。
- ②児童が主体的に考え・行動できるよう、様々な場面を想定した避難訓練を行う。
- ③校区・地域の自然環境や防災体制についての知識・理解を深める学習を積み上げる。
- ④自分たちにできることは何かを考え、様々な訓練を行う。
- ⑤学校防災マニュアル等の見直しを行う。
- ⑥各学年の学習内容の中で地震・津波の学習や防災・減災に関連する学習を行う。
- ⑦防災教育研究発表会や講演会を行い、集約をする。

1 効果的な避難訓練の実施

9月に校舎を移転したこともあり、避難訓練は2学期に集中的に行った。

旧校舎で実施（4月～7月）

避難場所・・・竈戸神社
5月30日、7月4日

現校舎で実施（9月～）

避難場所・・・天満宮裏

9月 11日(新校舎初・避難場所の確認)
19日(親子避難訓練・引き渡し訓練)
10月 23～29日(集中訓練)

休み時間、掃除の時間、
昼食中、昼休み、
朝マラソン 等

(1) 地震発生時の基本とすること

地震発生時の行動の基本にすることは、どこにいても、どのような状況でも「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ、素早く身を寄せて安全を確保し、自分の命を守ることである。このことを身に付けさせるためには、教師の指示を待たずに児童が自ら判断し行動できるようくりかえし指導・訓練することが大切である。

発達の段階に応じ、何が危ないのか具体的な指導を行うために、教師自身が落ちてくるもの、倒れてくるもの、移動してくるものとはどんなものがあるか教室や校舎内を把握し、注意喚起をしていくことが必要である。

(2) 避難訓練上の留意点

◆校内での初期避難

校内で地震による揺れを感じたり、緊急地震速報の報知音が聞こえたりしたら、直ちに「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を判断し、そこに身を寄せる。

- ・机のある場所では、机の下に隠れる
- ・机がない場所では、椅子などの落下物を防げるものの下に隠れる
- ・隠れるものが何もない場所では、上からものが落ちてこない・横からものが倒れてこない・移動してこない場所に移動し、低い姿勢で、ダンゴムシのポーズをとる

◆校外での初期避難

校内と同様、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を判断し、そこに身を寄せて、低い姿勢で、ダンゴムシのポーズをとる。揺れがおさまれば、いち早く高台に走って避難する。

(3) 地震・津波の避難訓練

☆避難場所

1次避難場所…東門前(児童玄関前)へ
【集中避難訓練はここまで】

確認後

2次避難場所…窯戸神社・天満宮裏へ

☆避難の順序【お・は・し・も】

①地震発生(緊急地震速報のアラーム音)
↓ 100秒程度

②机の下など安全な場所に身を隠し、揺れがおさまるまで待つ

③揺れがおさまると、頭部をヘルメットなどで保護して避難する(自己の判断で避難開始)

④定められた経路を通り、第1次避難場所へ集合→児童の確認をし、2次避難場所に避難

⑤2次避難場所に避難し、再度人数確認をする

(避難訓練の様子)

10月23～29日に1週間連続して集中訓練を行った。休み時間や掃除の時間、昼食中や昼休み等、様々な時間に児童に予告なしで緊急地震速報の音を鳴らし、揺れから身を守る行動をとる訓練を実施した。



2 防災教育研修

更に学習を深めていくために、今年度は、慶応義塾大学の太木聖子先生に3度にわたって来ていただいた。

①6月には「防災教育の進め方」と題して、教職員、保護者や地域の方にお話をいただいた。

②9月には「防災意識を高めよう」と題して、講演を行っていただいた。

⑬12月6日の防災教育研究発表会では、「これからの防災教育～私たちができること～」と題して講演をいただきました。この日は地質学者であるご主人の宍倉先生にも、来ていただき地質学の側面から見た地震の話や土佐清水の地形の歴史など、興味深い内容のお話を聞かせていただきました。



3 防災の授業

教職員の研修を深めるため、授業研究を全学年で行った。

児童は防災学習を自分の身の回りの事と捉え、友だちと協力しながら取り組んでいた。

授業研究を進めるにあたり、県教育委員会学校安全対策課や西部教育事務所にも協力いただき、授業方法や指導案の書き方等について指導いただいた。



授業後、反省をする中で課題もみえ、今後の指導に活かすことをみんなで確認することができた。

－6年生－（図上訓練）

「自分の住んでいる地域の安全を考える」

自分の住んでいる地域の危険箇所を見付け、危険の種類によって色分けしたシールを目印に貼っていった。

授業後の成果

- ・建築士さんからの専門的なアドバイスがあったので、今まで気付かなかった新たな危険に気付くことができた。
- ・地域の避難場所を確認することで、どこに避難することがより安全なのかがわかった。
- ・自分の住んでいる地域の家々を地図で

確認したので、日頃お世話になっている人たちを再確認することができたし、あいさつもしやすくなった。

- ・避難後の生活のことも少しは考えられるようになった。



4 防災標語コンテスト

児童会の主催で、全校児童が標語を作る防災標語コンテストを行った。

その中から投票によって1位～3位までと、校長賞を決定した。標語を考える活動を通して児童の防災意識の向上につながった。



《防災標語》

<p>優しさを</p> <p>呼びかけ走る</p> <p>逃げるとき</p> <p>第1位</p>	<p>はよにげり</p> <p>じいちゃん</p> <p>ばあちゃん</p> <p>第2位</p>
<p>助け合おう</p> <p>みんなで協力</p> <p>二次災害</p> <p>第3位</p>	<p>げごうちゅう</p> <p>ぐらぐらゆれたら</p> <p>みちのまん中</p> <p>だんごむし</p> <p>校長賞</p>

IV 成果と今後の取組

1 取組による成果

- 校区探検を行い、調べ、まとめたことで、自分たちの住む地域の避難場所や避難道を確認することができた。また、避難するにはどの場所が良いか等の意見が児童から出されるようになり、防災に対する考えが深まってきた。
- 防災マップ作りを通して、自分たちの住む地域の良さにも着目したり、地域の危険箇所や避難場所の海拔を意識したりして、より防災に対する学習が深まった。
- 防災キャラクターや防災カルタ、更に全校で防災標語を作成したことで、防災意識が高まってきている。
- 教職員が防災教育の知識を深めるために講師（大木先生）を招聘し、研修を実施できた。また、保護者と一緒に避難訓練も行い、避難するときの注意点や避難道についても大木先生にアドバイスをいただき、保護者もこれからの取組につなげることができた。
- 避難訓練をいろいろな時間（授業中、昼食中、昼休み、掃除中、朝マラソン、20分休み）に実施したことで、児童は緊急地震速報を聞くとすぐ反応することができるようになり、地震に対する意識も高まった。また、避難場所に到着後、上級生が下級生の世話をする姿も多く見られるようになってきた。
- 防災アンケートの1回目と2回目を比べて、「地震が発生したとき、自分で判断して揺れから身の安全を守ることができるか」という設問で、ほとんどの児童が「できる」と回答している。また、「避難する安全な場所を知っている」と回答した児童も倍以上に増えてきている。「南海トラフ地震についてもっと学習したいと思うか」という設問にもほとんどの児童が「思う」と回答し、学習への意欲が感じられる。また、南海トラフ地震について関心を持つ家庭が増えてきており、家族で南海トラフ地震のことについて話題にしている割合も多くなってきている。

2 今後の展望

- 家族、学校、地域の一人ということを強く児童に意識させ、今後も「ダンゴムシ」「おはしも」などの基本的なことを大切にしながら、自分の命を守るために、自ら考え行動できることを目標に取組を進めていく。
- 児童が学習してきたことを家庭に知らせ、さらに家庭の意識を向上させるために、今後も取組を継続していく。
- 登下校時、休みの日等、いろいろな場所での避難方法を今後も指導していく。そしていつ、どこにいても、「自分の命は自分で守る」ことが実践できるよう取組を進めていく。
- 防災アンケートの1回目と2回目を比べて、地震に備えた準備をしている割合は少し増えているが、約半数が準備をしていない状況である。また、地震に備えていろいろと準備をしておくことで被害を少しでも減らせるということなど、今後啓発をしながら防災意識の高揚につなげなければならない。
- 防災アンケートによると、登下校中の避難行動については、「安全な場所に避難できない」「わからない」と答えた児童がまだいるので、登下校中の安全な避難場所を再度確認させて避難行動がきちんととれるように指導を継続していかなければならない。

今年度の取組を活かし、課題を一つ一つ克服しながら、これから先も児童と地域とともに「～自ら考え行動する防災教育の推進～」を継続して進めていきたいと考えている。